

「櫛小学校の久保のもぐらうっ伝承活動の取組」

1 学校名

曾於市立櫛小学校

2 学年・人数

櫛小学校1年～6年の児童 23人

協力者 櫛小学校卒業した中学生，久保集落に縁のある中学生

3 日時・場所

(1) 練習の日時

平成29年12月23日（土）午前10時～正午（櫛青少年館）

校区の行事である3世代交流会の中で練習を行う。

(2) 発表の日時・場所

平成30年1月14日（日）午後1時～午後3時（久保集落）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

久保^{くぼ}のもぐらうっ [曾於市指定無形民俗文化財]

(2) 由来

文献などの記録に残っていないため，正確には分かっていないが，集落のお年寄りの話によると，約100年位の歴史があるようだ。田畑を荒らすモグラを，地中でじっとしている冬場に退治して田畑を荒らさぬように，そして，五穀豊穡の年になるように，更には家内安全のよい年になるようにとの願いを込めて行われてきた。

(3) 構成等

長さ約2m程度の竹の棒に藁つとを巻いたものを手にし，久保集落の民家を一軒ずつ周り，「もぐらうっ」の歌を歌いながら棒を地面に叩きつける。歌い終わると，民家の人が出てきてお礼を述べ，餅やお菓子等を子どもたちに振る舞う。昔は，餅を7個渡したそうで，この風習を守るところもある。

5 保存会や地域との連携の具体

基本的には，久保自治会で伝承活動を行っているが，久保集落の児童数が減少し，平成25年度より櫛小学校及びPTAに協力を依頼し，櫛小学校の児童にも参加を呼びかけている。また，練習等についても，櫛校区の行事である3世代交流会で練習時間を確保してもらうなど，櫛校区公民館にも運営等に協力をお願いしている。その他，平成27年度に行われた櫛小学校新体育館落成式において，櫛小学校全児童による「もぐらうっ」の実演を披露するなど，保存の気運を高めている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校教育における伝承活動としては、「夢育み講話」で地域の歴史に詳しい方をお招きし、全児童に「久保のもぐらうっ」の歴史や歌などを説明していただいた。また、6年生の社会の学習において、校区の歴史を学ぶ際に、久保のもぐらうっについても学習を深めている。

久保集落の方々が高齢になってきたため、小学生時代に行った経験のある地元の中学生や地元の成人の男性、地元縁のある方に当日参加していただき、指導に当たっていただいている。

久保集落には現在小学生がおらず、久保集落だけでの伝承は今後も難しいため、今後も檜小学校全児童に参加を呼びかけながら、伝承していきたい。

7 取組の様子



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童】

たくさんの方の前でするのは少し恥ずかしかったが、一生懸命大きな声を出して叩いたのでよかった。これからも参加していきたい。

【保護者】

檜校区全体が少子高齢化しており、校区全体で伝承していければと思う。子どもたちにもいい体験になると思う。大人になっても体験したことをいろいろな人たちに伝えていってほしい。

【地域】

伝統を絶やしたくない。校区や学校にも協力を得ながら、今後も継承していきたい。

【教員】

大勢の方の前で、大きな声を出して演技することは、児童にとって大変よい体験となっている。年々、檜小学校全体の児童数も少なくなっているが、曾於市の指定無形民俗文化財にもなっている行事なので、これからも取組を継続して行ってほしい。